

森林業の将来考える

関市 県内関係者ら合同発表会



林業と森林整備を巡るさまざまな活動事例の報告があった発表会
関市若草通、わかぐさ・プラザ

県が主催する本年度の県森林・林業関係合同発表会が1日、関市若草通のわかぐさ・プラザで開かれ、林業を取り巻く現状や先進事例などが報告された。

表。関係者約200人が聴講した。産学官の連携組織「県森林技術開発・普及コンソーシアム」で事務局を務める県立森林文化アカデミーの中通実さんは、過去5年間の活動実績を報告。造林地で苗木を鳥獣被害から守る取り組みの成果や、外壁を木質化したプレハブ小屋の整備提案事業の進捗状況などを紹介した。来場者は熱心に耳を傾けていた。(古田浩康)

林業の健全な発展と知識の普及、啓発を目的に毎年開催し、県林業普及指導員や県森林研究所の研究員、林野庁職員、飛騨高山高校生らが活動内容を発

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限：平成 32 年 2 月 19 日

この記事は岐阜新聞社の許可を得て掲載しています。